

文化いせさき



赤堀花しょうぶ園

伊勢崎市文化協会

平成29年度伊勢崎市文化協会各部門事業予定

伊勢崎市文化協会では、一年間を通して下記のような行事を行います。
各期とも入場無料ですので、皆様お気軽にご来場ください。



会期 / 会場		開催日	会場	【部門】事業名
華蔵寺公園野外ステージ		4月 2日(日)	野外ステージ	【郷土芸能】 華蔵寺公園花まつり 郷土芸能発表会
定期総会		5月23日(火)	プラザ・アリア	
第1期	平成29年 9月8日(金)～10日(日) 境総合文化センター	9月 8日(金) ～10日(日)	一般展示室、 展示ロビー、小ホール	【美術】 総合作品展
		9月10日(日)	大ホール	【洋舞】 洋舞フェスティバル
			和室、茶室等	【茶道】 茶会
第2期	平成29年 11月18日(土)～19日(日) 境総合文化センター	11月18日(土) ～19日(日)	一般展示室、 展示ロビー	【自然】 自然部門総合展
		11月18日(土)	大ホール	【音楽】 市民音楽祭
		11月19日(日)	大ホール	【郷土芸能】 郷土芸能大会
第3期	平成30年 2月2日(金)～4日(日) 境総合文化センター	2月 2日(金) ～4日(日)	一般展示室、 展示ロビー、小ホール	【書道】 書道展
		2月 3日(土)	大ホール、和室等	【諸芸】 諸芸部門発表会
		2月 4日(日)	大ホール	【歌謡】 歌謡部門発表会
第4期	平成30年 2月3日(土)・4日(日) ふくしプラザ	2月 3日(土) 4日(日)	会議室、セミナー室	【文学】 文学祭
		2月 3日(土) 4日(日)	1Fワークショップ	【華道】 いけばな展
第4期	平成30年 2月22日(木)～25日(日) 文化会館	2月22日(木) ～25日(日)	大会議室	【写真】 写真展
		2月24日(土)	大ホール	【邦楽舞踊】 邦楽舞踊のつどい
		2月25日(日)	小ホール	【吟剣詩舞】 吟剣詩舞の集い
			大ホール	【民謡民舞】 民謡民舞発表大会

もくじ

【表紙説明】

巻頭言

伊勢崎市文化協会合併十周年に寄せて

伊勢崎市文化協会 会長諏訪 勝美……………2

特別寄稿

伊勢崎市文化協会合併十周年を迎えて

伊勢崎市 市長五十嵐 清隆……………3

伊勢崎市文化協会合併十周年に寄せて

伊勢崎市教育委員会 教育長 德江 基行……………3

平成二十八年度

伊勢崎市文化協会事業

伊勢崎市文化協会文化祭

舞台部門……………4
展示部門……………6
6（7）

伊勢崎市文化協会常任理事名簿

音楽部門／歌謡部門／邦楽舞踊部門
吟剣詩舞部門／民謡民舞部門／郷土芸能部門
洋舞部門／自然部門／諸芸部門／美術部門……………8
書道部門／写真部門／華道部門／茶道部門……………22

文学部門

伊勢崎市文化協会
（各部門のあゆみ）

☆伊勢崎市文化協会常任理事名簿
平成二十八年度新規加入団体
伊勢崎市文化協会への新規加入案内

☆平成二十八年度賛助会員名簿一覧表

☆平成二十九年度伊勢崎市文化協会団体名簿

☆伊勢崎市文化協会会則

☆伊勢崎市文化いせさき編集委員名簿・編集後記

☆平成二十九年度伊勢崎市文化協会各部門事業予定

30 29 28 27 25 23 26 24



赤堀花しょうぶ園（赤堀菖蒲園）は、今から約八百年前（十二世紀中頃）の農業用水路の跡です。昭和五十年代地域の開発に伴い発掘調査された結果、全体像が把握され、昭和五十八年十月に国指定史跡「女堀」となりました。「女堀」の中には保護、活用の一環として約二万四千株の花しょうぶが咲き乱れる、伊勢崎の花の名所です。

初夏には白や紫などの花しょうぶが約五百メートルに渡り一斉に咲き揃い、幻想的な世界をつくり出します。花の見頃となる六月中旬には、「赤堀花しょうぶ園まつり」を開催し、花しょうぶ苗の無料配布や野点、農産物直売など、様々なイベントを行い、市内外からだけでなく県外からも観光客が訪れ、訪れた方々の目を楽しませています。

撮影者／写真部門 写団チングルマ 永井 昇

伊勢崎市文化協会合併十周年に寄せて

伊勢崎市文化協会合併十周年の記念すべき文化祭が伊勢崎市文化会館において盛大に開催できました事は、十五部門が日頃より一丸となり研鑽を積み重ねた成果が存分に発揮された二日間だったと思います。

開催に当たり事務局スタッフのご指導により全て手際よく進める事ができました。発表会第二日目「月二十八日、玄関口に入る」とロビー右手に添花が出迎え上部門がお客様にお茶を振舞つていました。また、大小ホールの入り口近くには、受付と大きな添花がお客様を迎えていました。心は和やかで優雅な気持ちにさせてくれます。また

式典では、伊勢崎市長五十嵐清隆様より旧四市町村との合併の労をねぎらうお言葉を戴き、文化活動を通して市民の心豊かに元気な伊勢崎市に貢献出来るよう長く続けて多くの人々に伊勢崎市の文化を後世に継承して欲しいと激励されました。また、市議会議長矢島征司様にはおかれましては、常日頃より様々な芸術文化活動の中心としてご活躍され、広く本市の芸術文化の振興と発展に多大なご尽力をいたぐとともに伊勢崎市文化協会の会員の皆様におかれましては、常日頃より様々な芸術文化活動を通じて市政各般にわたり、格別なるご支援、ご協力を賜っておりますことに深く感謝を申し上げます。

この度は、伊勢崎市文化協会合併十周年を迎えられ、文化祭が盛大に開催されましたことを心からお慶び申し上げます。

伊勢崎市文化協会の会員の皆様におかれましては、常日頃より様々な芸術文化活動の振興と発展に、文化活動を通して市政各般にわたり、格別なるご支援、ご協力を賜っておりますことに深く感謝を申し上げます。

今日の社会情勢の変化はめまぐるしく、日常の暮らしの中にゆとりや心の豊かさが求められる中、芸術文化を通じた感動や仲間との親睦は、その役割を果たす大きなものとなります。

また、地域の特性を生かした市民文化の創造を目指す皆様の活動は、市民の文化的な活動の活性化を図ることも、伝統芸能の保存と継承に努める伊勢崎市にとりまして大変強く、今後益々重要ななると考えております。

会員の皆様におかれましては、魅力ある地域づくりのため芸術文化の振興、伝統文化の継承・発展に、なれど、伊勢崎市文化協会の機関紙「文化いせさき」の発行おめでとうございます。

伊勢崎市文化協会の皆様には、常に頃本市の教育行政とりわけ生涯学習の推進にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

近年の社会情勢は少子高齢化、核家族化により地域のつながりが希薄化しているといわれております。現代社会の様々な地域課題に対し、全ての市民が問題意識を持ち、積極的に地域に関わっていくことが求められています。本市教育委員会では、地域全体で課題を改善し、子供から大人までみんなが笑顔になれるよう、夢や希望、生きがいの実現に向けて「個性を見出し伸ばせる学びの人づくり」を進めているところです。

伊勢崎市文化協会合併十周年を迎えて



伊勢崎市
市長 五十嵐 清隆



伊勢崎市文化協会
会長 諏訪 勝美



伊勢崎市教育委員会
教育長 德江 基行

最後に県文化協会連合会副会長の清水和夫様からは、伊勢崎市文化協会は、個性豊かで地域文化交流の深さ、文化活動の質の高さなど、十周年を観られた事で四市町村の合併が早くスムーズに行われた事に納得するところがあつたとお褒めを戴きました。来賓の方々に過分のお言葉を頂き感激の極みです。本当に有難く心より感謝申し上げます。

議室では美術部門十五団体の作品があり、小会議室には文学部門が七団体、和室では諸芸の囲碁、日を変え刀剣の展示もあり、三階の展示室では書道部門十九団体、第一展示室では写真部門の八団体が互いの持ち場を有意義に活用して各部門とも技術の高さと出来栄えに大きな感動を与え、来場者の心に残る伝統文化の発表ができました。

終わりになりますが十周年の文化祭にご協力戴きました関係各位の皆様方の御多幸と益々のご健勝をご祈念申し上げ挨拶と致します。

基行様には文化協会が一致団結して十周年を迎えたことに感銘を受けた事、そして会員の平均年齢が六十五歳から七十五歳に引き上げられた事から、その十年を有効に地域の文化そして健康作りに活用して楽しく人生を過ごして欲しいと、そして

一方小ホールでは舞台部門の吟剣詩舞、諸芸、歌謡、洋舞部門の四部門五十八団体が一日間で八十六の演舞で人物を讃え風景を詠い優雅に力強く大勢の来場者を魅了させて居りました。

展示部門では二階大ホールのホワイエで盆栽、石仏、山野草、蘭など、エントランスホールには茶道を、第一、第二練習室にいけばな協会、二階大会

一方小ホールでは舞台部門の吟剣詩舞、諸芸、歌謡、洋舞部門の四部門五十八団体が一日間で八十六の演舞で人物を讃え風景を詠い優雅に力強く大勢の来場者を魅了させて居りました。

展示部門では二階大ホールのホワイエで盆栽、石仏、山野草、蘭など、エントランスホールには茶道を、第一、第二練習室にいけばな協会、二階大会

大ホールでの一日目は、郷土芸能、民謡民舞部門の五十九団体の中で譲り合い三十七の演目をリズムよく勇壮に、また華麗に会場を熱狂の渦に招き入れました。

二日日の大ホールは邦楽舞踊部門の厳粛で厳かに、また、可憐な懐かしさがあり多種多様な出し物で、前半は十三時に終了。舞台の準備時間を経て音楽部門が十五時五十分から二時迄と区切り発表会のフィナーレに相応しい華やかに豪快な舞台出演者で最後まで盛り上げ、会場いっぱいの来館者の心を掴み、大盛況のうちに終了できました。終了後の役員会に何事もなく最後まで無事終了できた事で、ともに疲れを忘れ全員が晴れやかな笑顔で解散する事ができました。

これも偏に伊勢崎市当局を始め事務局スタッフの皆様のご指導とご尽力、そして贊助会員皆様のご協力に感謝申し上げます。また文化協会集会に何事もなく最後まで無事終了できた事で、ともに疲れを忘れ全員が晴れやかな笑顔で解説する事ができました。

伊勢崎市文化協会の機関紙「文化いせさき」の発行おめでとうございます。

伊勢崎市文化協会の皆様には、常に頃本市の教育行政とりわけ生涯学習の推進にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

近年の社会情勢は少子高齢化、核家族化により地域のつながりが希薄化しているといわれております。現代社会の様々な地域課題に対して、全ての市民が問題意識を持ち、積極的に地域に関わっていくことが求められています。本市教育委員会では、地域全体で課題を改善し、子供から大人までみんなが笑顔になれるよう、夢や希望、生きがいの実現に向けて「個性を見出し伸ばせる学びの人づくり」を進めているところです。

伊勢崎市文化協会合併十周年の記念すべき文化祭が伊勢崎市文化会館において盛大に開催できました事は、十五部門が日頃より一丸となり研鑽を積み重ねた成果が存分に発揮された二日間だったと思います。

開催に当たり事務局スタッフのご指導により全て手際よく進める事ができました。発表会第二日目「月二十八日、玄関口に入る」とロビー右手に添花が出迎え上部門がお客様にお茶を振舞つていました。また、大小ホールの入り口近くには、受付と大きな添花がお客様を迎えていました。心は和やかで優雅な気持ちはさせてくれます。また

式典では、伊勢崎市長五十嵐清隆様より旧四市町村との合併の労をねぎらうお言葉を戴き、文化活動を通して市民の心豊かに元気な伊勢崎市に貢献出来るよう長く続けて多くの人々に伊勢崎市の文化を後世に継承して欲しいと激励されました。また、市議会議長矢島征司様にはおかれましては、常日頃より様々な芸術文化活動の中心としてご活躍され、広く本市の芸術文化の振興と発展に多大なご尽力をいたぐとともに伊勢崎市文化協会の会員の皆様におかれましては、魅

文化の創造を目指す皆様の活動は、市民の文化的な活動の活性化を図ることも、伝統芸能の保存と継承に努める伊勢崎市にとりまして大変心強く、今後益々重要ななると考えております。

会員の皆様におかれましては、魅力ある地域づくりのため芸術文化の振興、伝統文化の継承・発展に、なれど、伊勢崎市文化協会の機関紙「文化いせさき」の発行おめでとうございます。

伊勢崎市文化協会の皆様には、常に頃本市の教育行政とりわけ生涯学習の推進にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

近年の社会情勢は少子高齢化、核家族化により地域のつながりが希薄化しているといわれております。現代社会の様々な地域課題に対して、全ての市民が問題意識を持ち、積極的に地域に関わっていくことが求められています。本市教育委員会では、地域全体で課題を改善し、子供から大人までみんなが笑顔になれるよう、夢や希望、生きがいの実現に向けて「個性を見出し伸ばせる学びの人づくり」を進めているところです。

伊勢崎市文化協会合併十周年に寄せて



伊勢崎市教育委員会
教育長 德江 基行

伊勢崎市文化協会文化祭を終えて

高野 邁

平成十九年に四市町村が合併し新生伊勢崎市文化協会が誕生いたしました。早いもので十年を迎えました。

その記念すべき文化祭を平成二十九年一月二十八日(土)・二十九日(日)の二日間に亘り盛大に開催いたしました。

初日の大ホールでは郷土芸能・民謡民舞・和太鼓の迫力有る響でスタートし会場を沸かせました。

民謡民舞の方々はお揃いの衣装で華やかに踊って下さいました。

午後一時十五分より式典が行われました。

最初に諏訪会長より十五部門三百団体九千五百名が目標を掲げ、互に切磋琢磨し活発に新たな文化を目指して邁進しているとの力強い挨拶がありました。

二日目の二十九日(日)小ホールでは吟剣詩舞・洋舞・諸芸・歌謡曲と行われ、されに着飾ったフォーグダンスの方々の踊りが印象的でした。また、マジックショーでは鳩がいろんな所から飛び出すなどのすばらしい技を堪能しました。

大ホールでは邦楽舞踊の共演で、さすが長年に亘り作り上げた奥深い舞踊を観て頂きました。

邦楽部門は午後二時に終りました。午後は三時五



十分に音楽部門のスタートです。生演奏の歌謡バンド・また、オカリナのきれいな音色に心を打たれました。コーラスの皆さんもさわやかな歌声が会場のお客様を魅了しました。

また、展示会場も大変盛り上がり心を込めた作品を観て頂きました。

二日間に亘つての文化祭、実りの多い記念大会になったと思います。

諏訪会長を始め役員の皆さん、市職員の皆様大変お世話を成りありがとうございました。

市長五十嵐様からは伝統文化に温かいご理解を頂きま

した。

五名の来賓の方々が登壇され心温る御祝辞を賜りました。

小ホールでは吟剣詩舞・諸芸・歌謡・洋舞とふだん鍛えぬかれた演技の数々を披露しました。

でした。

展示部門

伊勢崎市文化協会合併十周年記念文化祭を終えて

児島 貞一郎



伊勢崎市文化協会も、各関係機関の方々のご協力のお陰で十周年を迎えることになりました。それらが手腕を發揮してから人々の交流も深まり、お互い力を合せ、伊勢崎市文化会館にて開催いたしました。各部門も、長年の練習の成果を充分發揮する事ができたものと思います。先ず、自然部門では、盆栽も小作品から大きい作品まで、小さくても自然の岩や樹々を表現し、春蘭なども種類の多さに感心し、また、大きな作品は数十年もの間毎日面倒を見て、注意しながら水や肥料をやり、剪定などをし、数百年も過ぎた大木や樹林を思わせるような見事な作品が揃い、観る人を感動させました。

書道も多種多様にあり、各作家が得意の分野で実力を発揮し、多様な作品が見られ好評でした。文学の分野も、昔の子供の絵本や懐かしいものが沢山あり、俳句と川柳のちがい等聞いたり俳画なども好評でした。

その他、美術部門の伊勢崎くらしの会、フラワー関係、絵画等もそれぞれが実力を發揮し好評でした。



写真家は聞くところ夜中に出掛け、目的地につき朝日が昇る前や登り始めまでにカメラをセットして時を待ちシャッターを切るなど、鷹なども獲物を取る時のハーリングの瞬間や、その間シャツターチャンスを待つている時の寒さやご苦労をお察しし、観る人に感動を与えました。

諸芸部門の刀剣展も数百年前のものや現代の刀剣まで多種多様にあり、また、作刀家も多く「振の刀剣」にも多様な銘称があり、感心しながら見せて頂き好評でした。

音楽部門

十周年記念を終えて

矢内 三四郎

文化協会合併十周年を記念して文化祭が開催されました。

た。

音楽部門においても、応援して下さる皆様の御陰でコージャス、器楽演奏を発表することができました。音楽は、演奏することも聴くことも楽しく、ご来場の皆様と一緒に楽しい時間を過ごすことができたのは幸せです。

仲間と曲を仕上げるのは、練習の積み重ねにほかならないし、美しいハーモニーに達成出来た時の喜びは自信に結びついて元気ができます。十周年という長い年月を続けて来た

会員の熱意に感謝します。
音楽を通していろいろな人の出会いを作り、すばらしいハーモニーを市民の皆様にお届けでき、明るい町づくりに貢献できれば、町のあちらこちらからメロディが流れ活気にあふれる街になると思います。

音楽部門は、これからもますます頑張ります。伊勢崎市の文化の発展に深い理解とご支援を賜っている賛助会員の皆様、事務局、役員各位に心からお礼申し上げます。



歌謡部門

須賀 昌三

五年間の活動を振り返って

先ず五年間を振り返つてみると、平成二十四年度、歌謡部門の活動は二十四年一月八日の新年会で六月十七日に第十二回発表会を実施することに決め、境総合文化センター大ホールで行い、百六十名の会員が「ナツメロ」や新曲等熱唱し、会場を沸かし楽しむ雰囲気の中に終りました。

二回の開催が通例の行事として十三回発表会は十一月二十五日（日）同会場で挙行し、百五十名が持ち歌を一生懸命唱い揚げました。

二十五年度は六月十六日第十四回発表会を実施、百六十九名の多数出場者で賑わいました。

秋にはやゝ寒くなりましたが、歌好きな会員にとっては、

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わりホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

十七回発表会は部門単独でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わり

ホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。

歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わり

ホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。

歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わり

ホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。

歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わり

ホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。

歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わり

ホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。

歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わり

ホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。

歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互いの協力で問題なく実施できました。

市長五十嵐清隆様、教育長徳江基行様の激励を頂き、更に部門会員の応援も加わり

ホール内が賑わい成功と言え

ると思いました。

二十七年度は第十八回発表会で、五百名の会員が歌を歌いました。

歌謡部門は、これまでの活動で多くの会員が成長し、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

五年間の活動を振り返ると、歌謡部員たちは、毎回の発表会で成長していく姿が見て取れます。歌謡部員たちは、歌を歌うことで、自分たちの才能や喜びを表現する機会となりました。また、歌謡部員たちの努力と情熱が、毎回の発表会で見えてくるようになりました。

第十九回発表会は二十八年二月七日、寒さを考慮、出場者は百六十名でした。運営委員、会場の皆さんともども会場整理を終え暗くなる道を家路に付きました。出場者は百六十名でした。

二十六年度も二回の発表会を、六月二十九日は今まで通り歌謡部門単独で行い、トッ

プ歌唱者、デュエットはフルコーラスとして行いました。百七十一組で欠席は二名と盛況な発表会でした。

二十九年一月二十八、二十九日に伊勢崎市文化会館で文化祭を小ホールで代表者四十四名出演満席盛況でした。

来年度も部門十四支部でなく、ブロック別で九月二十一日に、美術、茶道部門と一緒に境総合文化センターで行いました。三部門互

邦樂舞踊部門

伊勢崎市文化協会合併十周年文化祭を終えて

川島 かずみ

先日の十周年の文化祭におきましては、会員の皆さんを始め事務局の方々のお力添えにより、無事に終える事ができ、ホッとしております。

前回、五周年の文化祭の時は統合して初めてのことであつた為か、ただ無我夢中で何もできずに終わつてしまつたと記憶しております、その経験を教訓にと頑張つたつもりですがまだ力及ばず…。来場してくださるお客様に満足して頂ければ、出演者にとって有意義な発表会となれば最高だなあと常に思つております。

平成十九年の伊勢崎市文化協会が合併してから十年が経ち、これからはそれぞれがもつと個性を發揮できるかたち、場にしていきたいと考えます。



吟劍詩舞部門

まず継続そして継承を

閑 勝巳

早いもので五年前の文化祭を経て、さらに五年が経過しました。

その間も、毎年私達の吟劍詩舞部門は、吟詠関係九団体、舞の関係六団体の計十五団体が集まり「吟劍詩舞の集い」として伊勢崎市長、伊勢崎市教育長をお迎えし、発表会を開催しました。

その発表会の主な内容は、子供から大人までの会員による詩吟、詩舞、剣舞、新舞踊、歌謡吟詠、歌謡詩舞など多岐わたる構成で、各団体の特色を生かした演出で発表してきました。

さらに、賛助出演として玉村文化協会の有志の皆さんの吟詠のほか、古武道、居合道、華道、弓道なども披露されました。

ております。

これからも私達「邦樂舞踊」は現状の環境に甘んじることなく、より一層皆様から愛される部門になれるよう努力、精進して参りますので、何卒応援の程宜しくお願ひ申し上げます。



民謡民舞部門

合併十周年記念文化祭を
おえて

設楽 昭好

民謡民舞部門は、十八団体で年一回文化会館大ホールで発表会を行つております。唄の部門、踊の部門ともに日々練習を重ね、鍛え築き上げた成果を大いに刺激し合いながら和気合々と挙行しています。

平成二十八年度は伊勢崎市文化協会合併十周年文化祭と銘打つて、平成二十九年一月二十八日郷土芸能部門との合同による大会でした。文化協会運営委員の皆さん方、事務局の方々には大変お世話になりました。司会の渡辺のり子さんの名調子に乗せられ、オープニング、福島町八木節保存会から、最終三十七番慎星会の、上州鏑野糸挽き唄まで、満りなく盛大に終始できました。八木節・屋

台囃し・古武道・和太鼓・古式ゆかしき保存会の演武等々、普段お目にかかるぬ出し物で堪能いたしました。高齢化が進む中で、チビッ子達の和太鼓には心を奪われたものでした。また、全体的に若い後継者が多い事に、うらやましさを感じずにはいられません。

私ども民謡を愛する仲間世に伝えるには……考えさせられます。現在も行っていますが、活動の一環として、老人ホーム、ケアセンター、各地域でのミニデーサービス等の慰問をこれからも続けて行きたいと思っています。

これからも伊勢崎市の文化の発展の為に微力ではありますぐ努力を続けて行きたいと思います。終りに大勢の皆様にも感謝でいっぱいです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

郷土芸能部門

十周年文化祭を終えて

糸井 清春

伊勢崎市文化協会合併十周年文化祭が、平成二十九年一月二十八日（土）・二十九日（日）の二日間に亘り、伊勢崎市文化会館で開催されました。私達「郷土芸能」

部門は「民謡民舞部門」と一緒に二十八日（土）に、大ホールにおいて発表を行いました。出演者は今までの練習の成果をそれぞれに発表し、大変すばらしい発表会であったと思思います。多少の課題は残りましたが、今後の参考になりましたが、今後の参考にしたいと思います。

前回の「五周年文化祭」から五年が経過しました。

「郷土芸能」部門は八木節を始め、和太鼓、屋台囃子、拳法等、多彩な演目を披露してきました。四月の華蔵寺公園「花まつり」から始まり、



洋舞部門

伊勢崎市文化協会文化祭に出場して 福島 きり奈

伊勢崎市文化協会合併十周年記念文化祭が伊勢崎市文化会館にて盛大に開催されました。これもひとえに文化観光課の方々、関係者、役員の皆さんのお陰です。大変感謝申し上げます。

文化祭の一階ロビーには、自然部門の盆栽や、華道部門のいけばなが展示しており、とても華やかに飾られていました。自然の芸術を見る事ができ、目の保養になりました。

そして茶道部門の方がお点前を披露してくださいました。出演前に美味しいお菓子とお茶を頂き、緊張がほぐれて心が和み、穏やかな気持ちになりました。日本の文化は心に栄養を与えてくれる素晴らしいものだと感動しました。

私達の洋舞部門の五年間の

発表会を振り返りたいと思います。

フランダンス・フォークダンス・レクダンスの集まりで、今年は、二十一団体が参加しました。年々新しい団体が増え、華やかになり、更に活性化してきました。

発表会では皆さんのが衣装もマイクも豪華で、お互いにチームの踊りを見て、応援したり良い刺激になりました。これも毎年勉強になります。

そして役員、会員の先輩方が親切で、会議もまとめてくださいいつも感謝しています。

そこで事務局の方が準備や資料作りと会場のサポートをしてくださるので、当日の踊りに精一杯力を發揮することができます。皆で役割分担をして力を合わせてステージを成功させたので、達成感があり感動しました。年に一度の発表会は毎年楽しみにしています。

今年は合併十周年記念で、小ホールは、吟剣詩舞、諸芸、歌謡、洋舞の順番で披露しました。今年は舞台の袖で皆

さんの演技を拝見できてとても光栄でした。色々な部門の作品を拝見する事ができて魅了を感じ皆さん輝いていました。

伊勢崎市文化協会の益々の躍進に流れ、無事に三曲踊れて、心から楽しめた事、お客様が沢山来てくださって声援を送ってくださった事、すべての事に感謝したいと思いま

す。また次の発表会に向けて練習に励みたいと思います。伊勢崎市文化協会の益々の発展を心より願っています。

頂き、司会も音響も滞りなく順調に流れ、声援を送ってくださった事、お客様が沢山来てくださって声援を送ってくださった事、すべての事に感謝したいと思いま

す。また次の発表会に向けて練習に励みたいと思います。

今年は合併十周年記念で、小ホールは、吟剣詩舞、諸芸、歌謡、洋舞の順番で披露されました。今年は舞台の袖で皆

踊りに精一杯力を發揮することができます。皆で役割分担をして力を合わせてステージを成功させたので、達成感があり感動しました。年に一度の発表会は毎年楽しみにしています。

今年は合併十周年記念で、

小ホールは、吟剣詩舞、諸芸、歌謡、洋舞の順番で披露しました。今年は舞台の袖で皆

自然部門

五年間の活動内容

大和 洋司

光陰矢の如し、新市誕生を受けて平成十九年五月文化協会も四市町村が大同団結して発足し、早十年の歳月が流れました。

自然部門では発足当時十三団体(会員三六八人)でした。現在の組織の概要(組織・会員数)は盆栽三団体(五十六人)・山野草三団体(五十六人)・菊花二十四人)・蘭(二十四人)・野鳥(五〇人)・石仏写真(二〇人)合せて十団体(三十五人)で組織人数とも減少しています。

五年毎の文化祭を含め、毎年秋季に自然部門総合展を開催するほか、各団体ともに年二～三回の展示会を各所で自主開催し、組織間の交流を図り会員の親睦を深めて

います。また、盆栽・山野草・菊花等では群馬県・関東・全国レベルの展示会にも出品しています。

最近では、平成二十六年第八十八回国風盆栽展で久保田五郎次さんの五葉松が貴重盆栽として入選登録されました。

平成二十八年には第三十三回日本菊花全国大会で、小川弘さんの菊花が三本立単体鉢の部で最高賞の法務大臣賞に輝くなど活躍しています。

山野草では太田大光院での関東山野草展への展示。蘭部門では多種の蘭を育成し種別の展示会を開催。

石仏では年数回、神社仏閣路傍の石仏を探訪し、歴史検証や風雪に耐えた神仏像の表情をカメラに撮めています。

野鳥部門では四季折々に飛来する鳥を探鳥し自然環境保護活動を行っています。

各団体個々の年間活動は回数ですが、季節の自然環境の中で植物を育て草花を咲かせ続けていく地道な努力と

五年毎の文化祭を含め、毎年秋季に自然部門総合展を開催するほか、各団体ともに年二～三回の展示会を各所で自主開催し、組織間の交

流を図り会員の親睦を深めて、華やかになり、更に活性化してきました。発表会では皆さんのが衣装もマイクも豪華で、お互いにチームの踊りを見て、応援したり良い刺激になりました。これも毎年勉強になります。

そこで役員、会員の先輩方が親切で、会議もまとめてくださいいつも感謝しています。



盆栽写真 一団体八人

山野草 三団体三十七人

菊花 七十二点

蘭 団体五人

野鳥 四十五点

石仏写真 二十五点



書道部門

書道展を終えて

丸橋 孝男

四市町村合併による新たな

伊勢崎市文化協会が設立されて十年、書道部門においてもこの十年の間に少しづつ進化しているように思えます。団体数や会員数の多さでは他市町村では例を見ない程であります。

所属団体相互の「和」という事だと思っています。更に、仲よく交流している部門でもあります。

書道には、漢字・仮名・調和体・大字書・墨象・篆刻・刻字・ペン字作品がありますが、それらの作品を同じ会場内で交互に展示するもので、なかなか変化があり、良いもので、お互いに刺激を受けながら切磋琢磨して精進する

会場の都合で展示数に限りがあるのに、今回は過去二年の出品実績をみて、比例配分により団体内の出品数を指定させていただきました。十九団体、百十点の力作が、伊勢崎市文化会館三階の第一・第三会議室に展示され、参観者には大変好評でした。団体内の選抜といふこともあり、例年に比べてレベルアップされた作品が多くなったように思われます。

今後も更に質の高い書展を目指して、学んでいきたいと思いますので、各方面からご指導をいただければ幸いです。

最後に今回の出品団体を記録に残しておきます。

清月書道会・書道研究墨

これが大切な目的の一つだと考えています。お互いに交流を深め親睦の和を広げていき、伊勢崎市の芸術文化向上、発展のために役立つていただける書道部門を目指しているところです。

今回の書道部門の展示は、会場の都合で展示数に限りがあるのに、今年は過去二年の出品実績をみて、比例配分により団体内の出品数を指定させていただきました。十九団体、百十点の力作が、伊勢崎市文化会館三階の第一・第三会議室に展示され、参観者には大変好評でした。団体内の選抜といふこともあり、例年に比べてレベルアップされた作品が多くなったように思われます。

(以上十九団体)



写真部門

文化協会合併五周年記念
文化祭から十周年迄を
振り返って

橋本 智明

今回が十周年を迎えた文化祭になりました。写真は目で見て感じるもので一番分かりやすい芸術かもしれません。

その中で作品作りには苦労や葛藤があり少しでも良い作品を望みます。

振り返ってとても残念なのは会員の高齢化に伴い、この五年の間に「団体「赤堀写友会」と「いせさき写遊会」が退会してしまった事です。これから若い層の人に入会できる写真部門にしていきたいと思います。

過去五年間の中で写真部門は十周年の文化祭を含めて五回の写真展を開催しています。

第六回写真展は二〇一二年九月に境文化センターで開催

二月に文化会館二階で開催する事ができました。展示場が二階へ変わったことで出品者は大変喜びました。この写真展から八団体で出品点数が七十六点ありました。



いたしました。会場を一般展示室と展示ロビーを借りられたので出品作品が十団体で九十二点ありました。

第七回写真展は二〇一三年九月に境文化センターで前回より拡張して小ホールを増やして十団体で三四点の展示ができました。

第八回写真展は二〇一五年二月に文化会館で開催いたしました。エントランス・コンコースが展示場でした。展示場について苦情が沢山ありました。写真がよく見えない、あるいは寒かったです。作品点数は八〇点でした。この写真展が終了後二団体が退会し写真部門実行委員長島田清氏が辞任されました。

第九回写真展は二〇一六年二月に文化会館二階で開催する事ができました。展示場が二階へ変わったことで出品者は大変喜びました。この写真展から八団体で出品点数が七十

点でした。

十周年の文化祭が終わって第一展示室で開催いたしました。出品点数は八団体で七十五点でした。

五年間の写真内容は人物写真が少なくなりた傾向があります。ネイチャー写真が大部分を占めています。写真のレベルは大変向上していると感じました。

展示部門で共通で言われているのは、伊勢崎市の展示施設（ギャラリー）が欲しいと希望する声が聞こえます。会員増加や出品点数拡大にも繋がって行くと思います。二十二万二〇〇〇人以上の人口を数える都市ですから是非欲しいですね。

華道部門

合併十周年に寄せて

大和田 貞代

伊勢崎市文化協会の合併十周年に合わせた文化祭が一月二十八日、二十九日の二日間市文化会館で開催され、十周年の節目のいけばな展として、各流派とも緊張の中にも心をこめて生け上げました。展示は前回の五周年と同じ一階の二会場です。季節が早春ということもあってや、シンプルな作品が多くなりましたが、会場の中は梅、百合、水仙等の香りがやさしく漂い、来場者から「春の花々の彩りと香りに包まれお華を身近に感じることができ幸せだと思います」との感想をいたゞき、またお子様連れの方も大勢入場下さり大いに賑わいました。文化会館内の二箇所に添え花の大作品を

茶道部門

十周年に寄せて

中島 アグリ

伊勢崎市文化協会合併十周年の記念行事に茶道部門は、七流派参加させていただきました。

（日）共に、呈茶席は大勢のお客様に、お席に付いて頂き大変喜んで下さり本当に有難うございました。

会員の皆さんも沢山のお客様に休む間もなくお運びやら、お菓子のお世話で終始忙しく過ごして居った様でした。

また、各部門とも、それぞれ毎に趣向を凝らし一年間の成果を発表する場所とも言える今年の記念文化祭は、五年前の時とは少し違った様に感じました。当然会員数も増え、団体も増えて居るの所が充実している様に思え

で何處も、とても盛会で全ての所が充実している様に思え



ました。

茶道部門においては、伝統文化の継承と言ふ程の重いもので無いにしても、決められた形の中で、基本を守り如何に身近な現在の「おもてなし」茶道に近づけるかを常に各流派とも考え、毎年行われる文化協会での茶会（添釜）の際には努力し活動して居ります。

この秋も九月十日（日）には境総合文化センターの二階和室を使い、三席の茶席が設けられますので、ぜひお席に付かれて楽しんで頂きたいと思います。心よりお待ち申し上げて居ります。

そして事務局の皆様には会

場のレイアウトから準備等に

大変り難うございました。

また、この会に携わって下

さいました、大勢の方々に心

より感謝申し上げます。

二十六年二月十五、十六日は、思いがけない記録的な大雪に見まわれ作品を展示し鑑賞されないまゝ中止となってしまった、苦い思い出（経験）となりました。第八回、第九回いけばな展とも流派の特徴を生かし、創意あふれる作品を展示し、順調に推移し今年の文化祭を迎えた。これからも日常生活の中で花と向き合い、いけばなの本質を学ぶことが大切と考えます。花を愛し、いけばなに親しむことのできる人生をしあわせだと



生けました。一作は小ホールホワイエ入口横、もう一作は北口コンコース右側のガラス室の前に活け大きな反響を呼びました。伊勢崎いけばな協会では、毎年伊勢崎市ふくしプラザ一階のワークショップを会場に、第七回からは展示スペースを広げ四十八作品構成で実施しております。

第七回いけばな展（平成二十六年二月十五、十六日）は、思いがけない記録的な大雪に見まわれ作品を展示し鑑賞されないまゝ中止となってしまった、苦い思い出（経験）となりました。第八回、第九回いけばな展とも流派の特徴を生かし、創意あふれる作品を展示し、順調に推移し今年の文化祭を迎えた。これからも日常生活の中で花と向き合い、いけばなの本質を学ぶことが大切と考えます。花を愛し、いけばなに親しむことのできる人生をしあわせだと



これからも会員一同日々精進し、よりよい華展がで生きるよう努力してまいります。最後になりましたが市事務局の皆様はじめ文化祭に関係するすべての方々に心から感謝とお礼を申し上げます。



平成28年度賛助会員名簿一覧表

順不同・敬称略

No.	団体名／会社名	住 所	代 表 者	電 話 番 号
24	魚や大水	伊勢崎市田部井町2-858-1	諏訪 弘	20-8338
25	ほしの呉服店	伊勢崎市国定町1丁目1250-10	星野 勝正	63-0144
26	(株)三共家具	伊勢崎市境伊与久3277	川端 和代	76-3744
27	(有)ユニバースサービス	伊勢崎市境伊与久3277	川端 巍	76-3023
28	(株)メガネのカイガン	伊勢崎市境女塚2-1	山崎 幸一	74-1681
29	川島 和美	伊勢崎市中町760	川島 和美	25-8111
30	ナイトスポット梵	伊勢崎市上諏訪町1257-2	久保美由紀	23-6867
31	紫墨会	伊勢崎市昭和町1950-1	児島貞二郎	25-4025
32	永井洋画研究所	伊勢崎市平和町9-10	永井金四郎	25-5463
33	アクツ印刷	伊勢崎市下触町911-1	阿久津泰弘	62-0460
34	プラザアリア	伊勢崎市喜多町147-1	鷹巣 修	25-0606
35	小暮法律事務所	伊勢崎市本町2-10	小暮 清人	20-1107
36	栗原章二	伊勢崎市大手町26-4	栗原 章二	25-1390
37	書道研究墨鳴会	伊勢崎市馬見塚町3262-13	丸橋 鳴峰	32-8472
38	玉藻会	伊勢崎市馬見塚町535-7	佐俣 玉江	32-5279
39	若駒会	伊勢崎市宗高町69-1	星野 良枝	23-6777
40	中里表具店	伊勢崎市平和町12-4	中里 俊男	25-3075
41	民謡旭星会	伊勢崎市安堀町701	高野 邁	24-1291
42	(株)下田運輸	伊勢崎市下道寺町359-1	下田 稔夫	32-0169
43	ふたば美容室	伊勢崎市野町27-4	町田 二葉	0120-28-5914
44	国定窯	伊勢崎市上田町172-10	関口 宗平	62-2881
45	伊勢崎ユネスコ協会	伊勢崎市今泉町2-410 伊勢崎市役所生涯学習課内	設楽 孝吉	27-2793

No.	団体名／会社名	住 所	代 表 者	電 話 番 号
1	(有)ワイズ・プランニング	伊勢崎市今泉町1-1099	山口 善弘	24-5033
2	カラオケスタジオ ミナミ	伊勢崎市境上矢島218	南 和夫	76-4129
3	川島美術印刷(株)	伊勢崎市中町760	川島 和美	25-8111
4	(有)諏訪精工	伊勢崎市国定町2-2065-3	諏訪 勝美	62-0126
5	フローリスト みね	伊勢崎市曲輪町15-10	藤井 栄	23-3628
6	清水生花店	伊勢崎市三光町7-23	清水 秋夫	26-8741
7	東光書道会	伊勢崎市境米岡685	新井 哲郎	74-0533
8	(株)茂木園	伊勢崎市本町20-1	茂木 克美	25-0174
9	伊勢崎プリオパレス	伊勢崎市昭和町3827	松井 研三	25-4122
10	ふろーらり ねぎし	伊勢崎市宮子町3634-9	根岸 一博	24-4222
11	(株)シンエイ	伊勢崎市連取町2355-5	清水 秀明	24-7245
12	三橋寿司	伊勢崎市昭和町4071	阿久津幸次	23-8069
13	カワバタ設計	伊勢崎市八幡町45-2	川端 俊明	25-8756
14	(有)保坂工務店	伊勢崎市波志江町3667	保坂 正男	24-1905
15	佐波伊勢崎農業協同組合	伊勢崎市連取町3096番地1	代表理事組合長 小倉 正秀	20-1220
16	着物良品	前橋市西片貝町3-297-3	堀口 隆敬	027-243-7033
17	西ひとみ社会保険労務士事務所	伊勢崎市田部井町1-1166-20	西 ひとみ	61-0570
18	東観光バス(株)	伊勢崎市境上渕名1186	中島 俊幸	76-5100
19	(有)田澤商店(セブンイレブン)	伊勢崎市田部井町2丁目乙1262	田沢 透	62-0018
20	細谷印刷(有)	伊勢崎市今泉町2-939-5	細谷 昌孝	25-0193
21	かず歯科診療所	伊勢崎市国定町2-2002-3	大山 和寿	62-8196
22	(有)飛翔	伊勢崎市今井町410-2	西村 敬右	25-2018
23	(有)品田石材	伊勢崎市国定町2-1854-6	品田 玉顕	62-0240

平成29年度伊勢崎市文化協会団体名簿

(平成29年4月1日現在)

	団体名	代表者	会員数
郷土芸能	22 西久保三おはやし保存会	常木 静子	20
	23 上州あずま太鼓会	須賀 正文	38
	24 氷樂流柔術保存会	水科 壽美	15
	25 下湖名獅子舞保存会	大橋 増一郎	20
	26 東新井獅子舞保存会	高橋 一豊	30
	27 東町囃子保存会	岡本 宇正	30
	28 女塚祭礼囃子保存会	真貝 豊	30
	29 荒町祭囃子保存会	田島 武雄	110
	30 三ツ木祭礼囃子保存会	室田 幸広	40
	31 上州・境雉子尾太鼓	柿沼 直	50
	32 創志民謡保存会	川田 芳雄	21
	33 赤堀ひごも太鼓	吉田 和義	44
	34 三室町子ども八木節会	小暮 利明	18
	35 上州八木節西小保方匠	牛脇 一英	10
	36 美茂呂町屋台囃子保存会	福島 行孝	30
	37 稲間組屋台・屋台囃子保存会	板垣 有一	19
	38 上州国定疋	井上 潤	10
	39 福島町八木節保存会	本木 栄一	34
	40 富塚町錢太鼓愛好会	岡田 きみ子	26
	合計		1,129
洋舞	1 レイナニアロハ	浜岡 久美子	38
	2 JAあずまフラクラブ	細野 京子	18
	3 フォークダンス境	山本 きみ江	14
	4 境フラークル・ハイビスカス	山鹿 延子	40
	5 プルメリア	柳澤 節子	15
	6 レクダンスみさと	永島 トシ江	22
	7 ハイビスカス豊受	久保 ひろ子	13
	8 Hula Hālau O Na Pua Lehua	福島 きり奈	26
	9 フラナニ・ブアリリレア	田島 典子	12
	10 ハイビスカス赤堀	斎藤 千代子	14
	11 ヒナノ	田端 道子	21
	12 ピカケ伊勢崎	小林 ひろみ	18
	13 Puanani	井野 恵利子	19
	14 レイモミ	高橋 文江	20
	15 三郷小町	細井 邦子	24
	16 フォークダンスなでしこ	木村 美枝子	20
	17 ロゼラニ	多賀谷 道代	19
	18 フラサークルパカラナ	石原 美津江	12
	19 フラナニエオネ	田村 清子	15
	20 キエレ	武井 貴美	15
	21 オハナ 口カヒ	上岡 文子	50
	22 名和ナイスフラレディース	櫻島 照子	23
	23 フラグループ Nā Lei	内山 敏子	13
	24 カブア	高橋 浩子	14
	25 ミノアカ	岡田 君子	12
	合計		507
自然芸能	1 日本野鳥の会群馬伊勢崎分会	大塚 高明	50
	2 日本盆栽協会伊勢崎支部	吹上 好弘	30
	3 伊勢崎小品盆栽会	金井 由一	25
	4 伊勢崎市盆栽クラブ連合会	大和 洋司	96
	5 伊勢崎市蘭蕙愛好会	吉沢 久治	24
	6 伊勢崎山草会	細谷 一美	18
	7 伊勢崎菊花同友会	小島 勝	24
	8 伊勢崎石仏の会	高橋 友七	20
	9 境山草会	瀬井 明	17
	10 うえはず山野草の会	小野里 美恵子	21
	合計		325
諸芸	1 あずま赤堀囃碁愛好会	小保方 重吉	19
	2 境演劇鑑賞会	杉本 仁八	50
	3 伊勢崎マジシャンクラブ	菊地 正之	23
	4 伊勢崎愛刀会	新木 純夫	12
	5 伊勢崎佐波囃碁会	村岡 武雄	60
	6 境囃碁研究会	天田 育宏	20
	合計		184
	総計		7,352

	団体名	代表者	会員数
文 学	1 みさと短歌会	吉沢 典子	17
	2 境図書館短歌会	光山 半彌	20
	3 川柳みやま吟社	石原 学	10
	4 群馬童話研究会	星 瑛子	21
	5 鈴木惣太郎を守る会	新藤 眺旦	45
	6 紙芝居を楽しむ会	新藤 靖	20
	7 伊勢崎市民俳句会	礒部 道昭	27
	合計		160
	1 伊勢崎アコーディオンサークル	中野 靖巳	20
	2 伊勢崎市民吹奏楽団	境野 智章	61
	3 アイオーしんきん音楽部	高間 博史	18
	4 ISESAKI SMC BIG BAND	西野目 心吾	34
	5 サウンドシャワー	大澤 敏明	15
	6 早川歌謡バンド	吉野 宗治	25
	7 合唱団コール・ルーエ	浜田 樹	30
	8 伊勢崎混声合唱団	矢内 三四郎	44
	9 伊勢崎コーラス・ノイエ	今 啓子	38
	10 あずまコールさんか	高橋 蓉代	24
	11 境女声コーラス水仙	和佐田 八重子	37
	12 コーラス・ヴィオラ	伊藤 喜美代	29
	13 伊勢崎第九を歌う会	尾内 本典	80
	14 ルーエクラブ合唱団	池田 昌子	34
	15 女声合唱団アマリリス	大橋 正子	30
	16 あすなろハーモニカクラブ	石橋 久	20
	17 凜	平田 康子	19
	18 伊勢崎室内合唱団	吉田 敏男	25
	19 女声コーラスめだか	鎧塚 福栄	25
	20 オカリナ・響	黒澤 千恵子	17
	21 コールひまわり	大井 麗子	14
	22 コール ぼこ・あ・ぼこ	田中 悅子	23
	23 合計		662
音 楽	1 あずま白樺会	船戸 省三郎	17
	2 櫻花会	植木 昭一	128
	3 ひまわり歌謡好友会	須賀 昌三	73
	4 ミュージックさかい	神戸 幸雄	11
	5 清水歌謡クラブ	星野 一江	112
	6 白川恵美歌謡学院境教室	北 サヨ子	107
	7 大国歌謡クラブ	荒井 通好	63
	8 NPO伊勢崎市福祉歌謡連合会	清水 巖	51
	9 清水歌謡教室	清水 巖	23
	10 植木歌謡教室	植木 春江	52
	11 ラッキーなかよし会	伊藤 ひろみ	33
	12 TAKESHIクラブ	井上 喜久寿	18
	13 歌謡教室ひばり会	田島 初美	35
	14 歌謡教室チエリー	奥積 房江	31
	合計		754
	1 伊勢崎邦楽舞踊協会	平野 澄子	120
	2 三郷民踊会	阿久津 テル子	6
	3 祐妃会	川島 かづみ	20
邦 楽	4 悅紅会	飯塚 悅子	13
	5 扇優会	石倉 優美子	30
	6 いづみ会	倉林 千恵子	19
	7 扇紫江会	林 君江	15
	8 吉三会	飯野 弘美	11
	9 玉藻会	佐侯 玉江	10
	10 若駒会	星野 良枝	11
	11 文寿会	高山 文代	11
	12 舞踊松葉会	田所 陽子	30
	13 琴謡会	井上 明子	8
	合計		960
	1 伊勢崎いけばな協会 桜	大和田 貞代	300
写 真	2 伊勢崎いけばな協会 松	竹内 忠	350
	合計		650
	1 伊勢崎茶道会 大日本茶道学会	猪脇 典子	212
	2 伊勢崎茶道会 江戸千家宗家	中島 アグリ	120
	3 伊勢崎茶道会表千家	小林 昭枝	252
	4 伊勢崎茶道会裏千家	阿久津 萬里子	276
	5 伊勢崎茶道会江戸千家	有川 よし子	50
	6 煎茶道東阿部流	新井 幸子	22
	7 煎茶道方円流	丹波 真知子	28
	合計		960

伊勢崎市文化いせさき編集委員名簿

(平成27・28年度)

No.	役職	名前	部門	所属
1	委員長	荻原 久エ	文学	みさと短歌会
2	副委員長	星 瑛子	音楽	コーラス・ヴィオラ
3	委員	児島 貞二郎	美術	紫墨会
4	々	福田 令子	書道	清月書道会
5	々	橋本 智明	写真	写団チングルマ
6	々	竹内 忠	華道	伊勢崎いけばな協会 松
7	々	有川 よし子	茶道	伊勢崎茶道会江戸千家
8	々	須賀 昌三	歌謡	ひまわり歌謡友好会
9	々	飯塚 悅子	邦楽舞踊	悦紅会
10	々	石田 英生	吟剣詩舞	吟道館流 上武吟詠会 那波の会
11	々	江原 昌代	民謡民舞	天秋会江原教室
12	々	金子 英保	郷土芸能	赤堀郷友会
13	々	牛久保 満知子	洋舞	レイモミ
14	々	大和 洋司	自然	伊勢崎市盆栽クラブ連合会
15	々	小保方 重吉	諸芸	あづま赤堀囲碁愛好会

四市町村の文化協会が、合併五周年記念事業を行ったのも束の間に過ぎ、今回ここに十周年記念事業を盛大に行うことできましたことは、会員一同大きな喜びであり、支えて下さった五十嵐市長・徳江教育長ほか、賛助会員としてご協力を惜しまぬ皆様のお心遣いに深く感謝申し上げます。

今回は記念事業の為、全部門が合同しての事業発表となり、平成二十九年一月二十八日、二十九日の二日間、文化会館の全館を借り受けての発表会となりました。

式典には、市長さんをはじめ市議会議長さん、教育長さん並びに県文化協会連合会副会長さんは、公務ご多忙の中ご臨席頂き、励ましのご挨拶を頂きました。その後はお茶席で、ゆったりお茶を召し上がるがっておりました。

萩原記

顶いたり、展示や舞台も見て頂きました。

特に今回諸芸部門では、普段なかなか見ることの出来ない珍しい年代物の「刀剣」の展示もあり、感心したり怖い物を見るような眼差しで見る人も多かったようです。

返り見ますとこの五年の間には、十五部門の中でも、団体の増減もあり、また、多岐にわたり努力を続けてきた役員の交代もありましたが、事業を無事に終了することができ、胸をなで下ろしております。

今後も文化協会の発展の為に、ますます努力し協力をもつて維持していくことが会員一同の務めであり、心を引き締めることを誓いながら来年度へと前進いたします。

編集後記



伊勢崎市文化協会会則

名称	第1条 本会は、伊勢崎市文化協会と称する。
目的	第2条 本会は、伊勢崎市における各文化団体の連絡調整を図るとともに活動を援助し、その向上発展に務め、本市における芸術文化振興発展に寄与することを目的とする。
事業	第3条 前条の目的を達成するために次の事業を行う。 (1) 各種文化団体間の連絡、情報交換、親睦に関する事。(2) 各種文化団体の行う事業の後援、奨励に関する事。 (3) 文化的研修に関する事。(4) その他文化活動に関する事。
会員	第4条 本会は、次の会員をもって組織する。 (1) 会員 本会の目的に賛同する文化団体。 (2) 賛助会員 本会の目的、事業に賛同する個人、法人、団体。
入会	第5条 本会に入会しようとする団体は10名以上で組織する団体であることとし、会長は申し出のあったとき、常任理事会に報告し、承認を得るものとする。 2 賛助会員は、会長に入会を申し出ることにより会員となる。
退会	第6条 本会を退会しようとする会員は、退会届を会長に提出するものとする。 2 会長は、本会の会員が会員として不適当と認めたときは、常任理事会にはかり、退会させることができる。
部門	第7条 本会に次の部門を置く。 ① 美術 ② 書道 ③ 写真 ④ 華道 ⑤ 茶道 ⑥ 文学 ⑦ 音楽 ⑧ 歌謡 ⑨ 邦楽舞踊 ⑩ 吟剣詩舞 ⑪ 民謡民舞 ⑫ 郷土芸能 ⑬ 洋舞 ⑭ 自然 ⑮ 諸芸
役員	第8条 本会に次の役員を置く。 ① 会長 1名 ② 副会長 4名 ③ 書記 2名 ④ 会計 2名 ⑤ 監事 2名 ⑥ 常任理事 若干名 本会には前項の役員のほかに顧問をおくことができる。 顧問は、会長が委嘱する。
理事	第9条 理事はすべての構成団体から1名選出し、総会の代議員となる。
常任理事の選出	第10条 常任理事は、部門ごとに理事の中から選出する。その選任数は各部門毎に2名を基本とし、構成員1,000名を超える部門については、1,000名を超えた構成員500名につき1名を加えた数の常任理事を選任する。
役員の選出	第11条 役員は常任理事の中から常任理事会で選出し、総会において承認する。 ただし、会長及び監事は常任理事以外のものをもって充てることができる。
役員の職務	第12条 役員の職務は以下のとおりとする。 ① 会長は本会を代表し、会務を総理する。 ② 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。 ③ 書記は本会の庶務事務にあたる。 ④ 会計は本会の会計を掌る。 ⑤ 監事は会務を監査し、総会に報告する。 ⑥ 常任理事は会務に参与し、その執行にあたる。
役員の任期	第13条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は第10条並びに第11条の規定に従い欠損を補充する。その任期は前任者の残任期間とする。
会議	第14条 本会の会議は次のとおりとする。 (1) 役員会 会長・副会長・書記・会計・監事からなり会長が必要に応じて召集し、会の重要事項を協議する。 (2) 常任理事会 常任理事からなり会長が必要に応じて召集し、会の運営・事業等について協議し、また執行にあたる。 (3) 総会 代議員(理事)からなり、毎年1回以上開催し、予算、決算、事業計画等を審議する。
会費	第15条 本会の会費は各団体会員年額3,000円とする。 2 賛助会員の会費は年額とし、1口10,000円とする。
会計年度	第16条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。
会則の改正	第17条 本会の会則改正は総会において決定する。
付則	1 この会則は平成19年5月25日から施行する。 この会則は平成23年5月20日から施行する。